

令和 5 年度(2023 年度)日本生物教育会(JABE)第 77 回全国大会大阪大会派遣報告

日時：令和 5 年 8 月 10 日～12 日

会場：近畿大学 東大阪キャンパス

派遣者：北海道中標津高等学校 教諭 押野 祐大

1. 口頭発表 第 3 分科会:自然・環境教育に関するもの 発表タイトル「北方圏における環境教育における取り組み」

発表者 北海道中標津高等学校 押野 祐大

口頭発表を行った。北海道は、ケッペンの気候区分では亜寒帯に属し、本州以南とは気候的に異なる。高等学校生物基礎では、植生の違いについて学習する。しかし、北海道では常緑広葉樹が極めて限られている。一般的に園芸種として使用される種を用いて、観察実験を行う事を提案した。また、海洋においても道東地域は非常に特異的な環境である。北半球における海水の南限域として知られている。海洋教育が叫ばれる中で、オホーツク海北海道沿岸域についての理解を深めることは、極めて重要であると言える。



図 1 近畿大学東大阪
キャンパス

2. 研究協議

第 2 分科会：探究活動

発表タイトル「自由で協働的な探究学習の授業づくり」

発表者 京都教育大学 名誉教授 村上 忠幸

探究学習には、前仮説段階を考慮した探究課程が必要である。自由で協働的な探究学習とは、先生や知識に支配されず、自分の考えを出し合うこと。異なる人が資質・能力、思考の多様性を活かして、対等に共同して関わり合い活動すること。そして、自分達で仮説を出し、意思決定して、課題を解決したり、成果物をつくったりすることによるものである。また、日本的には、集団性を基にしたアプローチをしていく事が有効であり、これは、欧米諸国とは異なった特徴である。

発表タイトル「探究活動における問題解決の様態と形成的評価の在り方」

発表者 大阪教育大学 特命研究員 向井 大喜

探究に係る問題形活課程というものは、「個」がたどる探究の過程を如何に見取るかが重要となる。探究の過程を整理するために「4つの窓」と名付けられたワークシートの使用を提唱された。

3. 講演会

演題:「近畿大学水産研究所の養殖研究について~近大マグロを中心に~」

近畿大学 水産研究所白浜実験場 特任教授 升間 主計 氏

近畿大学における養殖研究の歴史を近大マグロ研究の過程について講演された。

4. シンポジウム

演題:「生徒の声をもとにこれからの生物教育を考える」

パネリスト

近畿大学 生物理工学部遺伝子工学科 大学院生物理工学研究科 教授 三谷 匡 氏

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 藤枝 秀樹 氏

5. 現地研修

J:ユーグレナコース(近畿大学農学部):半日

まず、ユーグレナとバイオ燃料のに関する講義を受けた。その後、実験室へ移動し、ユーグレナからの油分の抽出実験を行った。実験後は、学内の研究室見学となった。



図2 ユーグレナの
検鏡写真



図3 インキュベータ内
のユーグレナ



図4 近畿大学農学部の
研究室の様子